

森の学校だより

富士山、福島、広島の3地区で、森・人・地域を育てる10年間のプロジェクト

FOREST
SCHOOL
BULLETIN

富士山地区

広島地区

福島地区

ネイチャークラフトと花炭づくり
森のプレイリーダー養成講座
古代米もちつきと自家製味噌

担当者から「こんにちは」
福島地区の森博士

森羅万象
東京の共有の森から、
元気と価値を発信する

樹
話
になる

木のスプーンをヒントに「森の未来」を考えませんか？
新しい年が幕開けて、1ヶ月近くが経ちました。「2014年はこんな1年にしよう！」と、新年の誓いを立てられた方も多いのではないのでしょうか。2005年度に事業がスタートした「ろうきん森の学校」は、皆さまのご支援・ご協力のおかげで、今年10周年を迎えます。これまでの取り組みがどんな成果を生み出し、どんな次なる一步を描くのか。
一つひとつ丁寧に検証して参ります。そう、それはまるで、この木のスプーンを生み出す行程と同じ。丁寧に、ひと削りひと削りをふりかえりながら、このスプーンで何を食べようかと想像する。皆さんもぜひ、今年の目標の1つに、「自分のスプーンを作る」を加えてはいかがでしょうか。



1～3月のイチオシ体験プログラム！

ネイチャークラフトと花炭作り体験

【日 付】2014年1月19日(日)

【対 象】どなたでも【参加費】500円

企画の背景

自然観察会と野外料理体験に次の体験プログラムの中から季節に適したものを加えた3つのプログラムで構成しています。

企画の想い

自然観察の仕方や森との付き合い方を身につけてもらうことを狙いとして、月1回第3日曜日に実施しております。



こんなプログラムで盛り上がりました！

活動報告

自然観察会

ボーイスカウトの子どもたちも加わり、総勢40名以上・3班編成にて湯ノ岳の観察コースを散策しました。観察できた植物は以下のとおり。

花・・・サザンカ、ツルグミ
 実・・・ガマズミ、チゴユリ、マムシグサ、イヌツゲ、ムラサキシキブ、ヒヨドリジョウゴ、マユミ、ニシキギ、ウメモドキ、ピラカンサ、ヤブコウジ、アオキ

「ところどころに紅葉が残っていて、15種類ちかくの植物をじっくり観察できてとても楽しかったです！」



他にもこんな体験が待っています！

■森の手入れ体験

【日付】2014年2月16日(日)

【対象】どなたでも

【概要】野外料理も合わせて体験できます！

【参加費】500円

■キノコ植菌体験

【日付】2014年3月16日(日)

【対象】どなたでも

【概要】野外料理も合わせて体験できます！

【参加費】500円



1～3月のイチオシ体験プログラム！

プレイリーダー養成ユースキャンプ

【日 付】2014年3月29日(土)～31日(月)

【対 象】高校生、大学生、青年塔

【参加費】6,000円

(2泊6食の宿泊費・食費・入浴料・保険料等)

企画の背景

ろうきん森の学校では、年間を通じて子どもを対象にした自然体験活動を実施しています。子どもと一緒に自然の中で遊び、安全を確保したり、場のセッティングをしたり、時には相談相手になったりしながら、子どもの体験活動支援する人材としてプレイリーダー養成講座を毎年開催しています。

企画の想い

安全で質の高い自然体験活動を提供するためには、自然体験活動や野外活動の基礎知識、アウトドアスキル、コミュニケーションスキル、体験学習についての理解、救急法のスキルなど、たくさんの知識やスキルが必要です。このセミナーでは、春休み期間中を利用して、大学生を中心とした次代を担うリーダーの養成のための2泊3日の集中トレーニングを行い、1年間活動するための力をつけていきます。



こんなプログラムで盛り上がりました！

活動報告

森の妖精くらぶ

11月3日に幼児の親子森遊び会「森の妖精くらぶ」を開催しました。あいにくの雨でしたが、カッパを着て秋の森をおさんぽして、きのこや木の実を見つけました。たき火をして焼きいもや焼きバナナ、森で収穫した焼きジャンボシイタケ、ナツハゼのジャムつきパンなどをみんなで美味しくいただきました。堆肥置き場で掘った大きなカブトムシ幼虫をお土産に持って帰りました。

きれいに整備された森と素敵な景色に感動しました。親自身、自然の中でどう子どもと過ごしたら良いのだろうかと思っていましたが、何も考えなくても、子どもも自分なりに楽しんで、自分もこの自然の中でリラックスできました。

(参加者アンケートより)



他にもこんな体験が待っています！

■とんど焼き

【日付】2014年1月13日(月)

【対象】どなたでも

【概要】ろうきん森の学校の地元

今吉田自治会主催のとんどに参加

【参加費】無料

■平日作業隊

【日付】1月～3月の毎週木曜日

【対象】森の整備に興味がある方

【概要】森の学校のフィールド整備、動植物調査など

【参加費】無料

富士山地区



1～3月のイチオシ体験プログラム！

里山のようちえん

古代米もちつき&自家製味噌づくり

【日 付】2014年1月18日(土)・19日(日)

【対 象】3歳～6歳(未就学児)と

その保護者／リピーターのみ小学2年生まで可

【参加費】大人13,000円、子ども9,000円

企画の背景

富士山で緑り広げられるホールアース自然学校流の森のようちえん、「里山のようちえん」では、年間を通じた畑と田んぼでのワークを中心に、親子と富士山の麓の里山での生活をつなげて楽しい食育プログラムと季節ごとの体験プログラムを行っています。本当の「いただきます」の意味を一緒に考えていきましょう。

企画の想い

1月は自家製味噌を作ります。味噌の材料である麹と大豆はホールアース農場で育てたお米と大豆。作った味噌をおいしく食べられるのは1年後。じっくりお家で発酵させた味噌は世界で1つしかない味噌の味になります。2日目はホールアース農場で育てた古代米を使って餅つきをします。赤米、黒米、玄米、白米など、色とりどりのお餅ができあがります。つきたてモチモチのお餅を贅沢にいただきます！



こんなプログラムで盛り上がりました！

活動報告 第8回 田貫湖秋まつり2013

恒例となっているお祭りが、今年度も10月20日に実施されました。会場は田貫湖(富士宮市)。地域の方々に富士山地区の人・自然・活動を知ってもらうため、森・里にまつわる様々な体験プログラムを用意しました。今回のテーマは「加工」。ヒノキや竹、農産物、シカやイノシシなど、里山の恵みに「加工」という視点を加えることの可能性を、体験プログラムを通して伝えました。



他にもこんな体験が待っています！

「ヒノキのアロマ」や「シカ皮のクラフト」など、思いもよらない体験ができてラッキーでした。来年も期待しています！



■里山のようちえん

【日付】2014年1月18日(土)・19日(日)

【対象】3歳～6歳(未就学児)とその保護者

※リピーターのみ小学2年生まで可

【概要】白米、玄米、赤米、黒米で餅つきをします。

色とりどりのおいしいお餅をいただきます！

冬の定番、味噌作りもします！

【参加費】大人13,000円、子ども9,000円

■里山つなぎ隊

【日付】2014年1月18日(土)・19日(日)

【対象】18歳以上

【概要】里山の森を守るために、

竹林を切って切って

切りまくります！

【参加費】2,000円

■おいしい里山物語

【日付】2014年2月16日(日)

【対象】満3歳以上

【概要】雑穀入り自家製味噌を作ります！

この時期しかできない

自家製味噌を作ります！

醤油絞りや餅つきもあります！

【参加費】大人3,500円 子ども2,500円

■里山のようちえん

【日付】2014年3月15日(土)・16日(日)

【対象】3歳～6歳(未就学児)とその保護者

※リピーターのみ小学2年生まで可

【概要】春になると出てくる野草。

野草を摘んで野草ピザをつくります。

春の恵みを一足先にいただきます！

【参加費】大人13,000円、子ども9,000円

ろうきん森の学校は

日本の里山再生をテーマに、労働金庫連合会の50周年記念社会貢献活動として、NPO法人ホールアース研究所が主管で行なう、森林環境教育事業です。2005年度より10年間にわたり富士山、福島、広島の全国3地区で同時展開しています。



Information & Access & Map

富士山地区

- 袖野エリア
- 田貫湖エリア
- 御殿場エリア

Information

NPO法人ホールアース研究所
〒419-0305 静岡県富士宮市下袖野165
TEL: 0544-66-0790 FAX: 0544-67-0567
E-mail: forest@wens.gr.jp
HP: http://wens.gr.jp

Access

電車: JR身延線「西富士宮駅」よりタクシー15分
車: 東名高速道路富士I.C.より西富士有料道路経由40分



福島地区

- 湯ノ岳エリア
- 岩出・好間・藤原エリア

Information

NPO法人いわきの森に親しむ会
〒970-8326 いわき市常盤藤原町湯の岳2湯ノ岳山荘内
TEL: 0246-44-3273 FAX: 0246-44-3273
E-mail: yunodake@gray.plala.or.jp
HP: http://www16.plala.or.jp/goan/

Access

電車: JR常磐線「いわき湯本駅」よりタクシー15分
車: 常磐自動車道いわき湯本I.C.より10分



広島地区

Information

NPO法人ひろしま自然学校
〒733-0004 広島市西区打越町11-8-207
TEL: 082-237-1163 FAX: 082-237-8863
E-mail: nkk2002@mac.com
HP: http://www.hs-gakkou.jp/Access

Access

電車: JR山陽新幹線「広島駅」よりバス60分
車: 広島自動車道広島北I.C.より20分



ろうきん森の学校全国事務局
NPO法人ホールアース研究所

〒419-0305 静岡県富士宮市下袖野165 TEL 0544-66-0790 FAX 0544-67-0567
E-mail: forest@wens.gr.jp HP: http://www.mori-gakko.com

担当者から
「こんにちは」



NPO法人いわきの森に親しむ会
まつぎ かつよし
会長 松崎 和敬 さん

3.11 から3年になります。福島県全体では未だに回復途上ですが、いわき市に限ると、市民の大半が海辺に比較的近いところに住んでいることもあり、放射線量も低く、放射線問題もウェイトは小さくなってきています。

ただ、いわき市の面積は福島県最大で全国の1/300、神奈川県1/2ととても広いため、一概にいわき市と言っても場所によってはいろいろな見方があるというのも事実です。

森の活動はというと、湯ノ岳山荘に家族単位で来られる方が、昨年の夏ぐらいから震災前の水準に戻ってきました。一方、学校単位での活動は、まだまだと言ったところです。

ろうきん森の学校のフィールドは、安全性も高く全く問題のない状況ですので、2014年はプログラム内容の充実化を測り、震災以前よりもさらに多くの皆さんに森の中での活動をして頂くための仕掛けづくりを考えているところです。ご期待ください。

森 羅 万 象

一般財団法人みんなの森財団
事務局長 堀内拓馬さん



PROFILE

1972年 山梨県生まれ
カナダ ナイアガラカレッジ卒業後、
都内のIT企業に就職。28歳で独立。IT会社運営。
2010年、一般財団法人みんなの森財団を設立し、
都会に住む人々に自然と関わる機会を提供している。

東京の共有の森から、元気と価値を発信する



Q1 みんなの森財団の概要を教えてください。

人が入らなくなった森林を地権者から購入し、森を活用したいと思っている皆さんに、フィールドと体験活動を提供しています。一般市民による、「農地開放」ならぬ「森林開放」といったところですね。いわば、現代の共有林を作ることになります。2008年頃から構想を始め、2010年から東京の日の出町をフィールドに本格的な活動をスタートさせました。今では、「景観の森」「冒険の森」「銀の森」の3つの森を活用しています。

Q2 堀内さんはどういう経緯で参画したんですか？

2000年代、地球温暖化防止の流れから、カーボン・オフセットという仕組みに興味を持ちました。ただ、森林のことは全く知らなかったので、森林ボランティア活動というカタチで山に勉強しに行くようになりました。そうしたら、森林ボランティアの現場の多くが、所有者から口約束だけでお借りしている状態だって知ったんですね。特にきちんとした契約を交わしてはいないので、時々トラブルも発生していたんです。こうした話を、現代表の園田に相談したところ、「買っちゃったほうがいいよ」と。森を買うにも森林整備を続けるにも、とにかくお金も人も必要なので、じゃあ組織を作ろうとなった訳です。

Q3 最近、木箱の販売を開始したそうですね。

東京都の助成金を活用して、針葉樹を間伐して広葉樹の森づくり事業をしています。ただ、東京の山ってものすごく急斜面なんです。伐採しても下ろすのが容易じゃないので、伐採した木をそのまま山に並べていました。そんな山に、神保町の古本屋さんをご案内しました。木が並んでいる光景をご覧になって、余っているんなら古本を保管・移動時に使う木箱を作ってくれないかと。そこで、仲間と協働で、間伐した材を製材し組み立てて、販売することにしました。今、農家さんからもこうした木箱の依頼が来ています。野菜を売る時に木箱に入っていたほうが見た目がいいんですね。将来はこの木箱の受注生産を拡大させたいと考えています。実は日の出町には障がい者の就労支援施設があるんですが、皆さんの時給が驚くほどに安い。ならば、木の伐採と製材・キット化をみんなの森財団が行い、木箱への組み立てと発送をこうした施設に委託して、もっと安定的なお金をお支払いできるようにしたいと考えています。



Q4 福島っこ元気村キャンプも続いていますね。

2011年に仕事関係でお会いした福島県郡山市のご出身の方から、「避難したくてもできない子どもたちがいる、なんとか面倒をみてもらえないか」と相談を受けたことが最初のきっかけです。森林整

備の拠点の古民家もあるので、じゃあやりましょうと。森林整備の一環で植樹や草刈りをしたり、森の中でテントを張って木を拾って焚き火をして、アウトドア料理を楽しんだり。2012年の春に第1回のキャンプを行いました。当時は、子どもたちが本当に屋外で遊びたくても遊べない状況が続いていたので、森や川というより、とにかくグラウンドで思いっきり駆け巡りたいという子どもが多かったです。みんなでグラウンドで寝転んだりもしましたよ。今では、リピーターの子どもが多く、その子たちが友達を連れてくるので、なんだかみんなが大家族で、親戚の家に遊びに来る感じです。

Q5 「森の学校だより」の読者の皆さんにメッセージをお願いします。

里山での暮らして、自然から多くのことを学ぶ機会であると同時に、地域という共同体の中で生きる感覚を身につける場でもあったと思うんです。生活の場と自然が切り離された今、そうした機会や場がなくなって、いろんなところにその弊害が起きている。都会に住む人が山に来て作業をすると、森だけでなくその人自身も元気になるのも、都会の中では見つからない、社会的な居場所・自分を活かす場所が見つかるからなんでしょうね。みんなの森も森の学校さんも、都会の人を森に誘いながら、価値観やライフスタイルを問い直すきっかけを提供していると思いますので、さらに多くの方にそれぞれの森に実際に来て欲しいと思います。

聞き手：田中 啓介(全国事務局)